

LMcorsa

60

● H.YOSHIMOTO

● S.KOHNO

SUPER GT 2020 Race Report Okayama Official Test

3月14-15日 | 天候：晴れ | コース：岡山国際サーキット | 路面：ウェット→ドライ

TEST Days Summary

タイヤをミシュランに変更したSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、今シーズン初の公式テストで、200周以上を走行してタイヤの特性やセッティングデータを蓄積
シリーズ初参戦となる河野駿佑選手はルーキーテストを無事に突破する

TEST Days

2015年からLEXUS RC F GT3でSUPER GTに参戦してきたLMcorsa。参戦当初はマシン開発の役割を担っていたために、思い通りのレースができず我慢を強いられるシーズンが続いた。ただ、LEXUS RC F GT3は徐々に戦闘力を上げていき、3シーズン目にはGT300クラスのライバルマシンと遜色ないパフォーマンスを示すようになる。2018年シーズンは第4戦のタイラウンド



で3位に入り表彰台に登ると、昨シーズンは第6戦のオートポリスラウンドで念願の初優勝を果たした。しかし、シーズン全体ではポイント圏外のフィニッシュが3戦など、チームとして決して納得の結果ではなかった。

迎える2020年シーズンは、チーム監督の飯田章氏と第1ドライバーの吉本大樹選手に変わりはないが、第2ドライバーとして河野駿佑選手が加わった。24歳の若手ドライバーだが、2014年にスーパーFJ鈴鹿シリーズでチャンピオンを獲得すると、2015年から3年間はFIA-F4選手権で上位争いを繰り広げ、2018年から全日本F3選手権を主戦場としてきた経験を持つ。フォーミュラカーでステップアップしてきたのでGT3マシンに乗る機会は少なかったが、昨年のSUPER GT特別戦でLMcorsaのFerrari 488GT3をドライブ。ライバル勢に対して遜色ない走りを見せて、今シーズンのレギュラーシートを得ることとなった。

TEST Days

ドライバーとともに使用するタイヤがミシュランに変わったこともトピックのひとつとなる。LMcorsa は、2 月と 3 月に実施されたメーカーテストにて新たに使用するミシュランタイヤの特徴を捉え、3 月 14 日（土）、15 日（日）に岡山国際サーキットで実施された SUPER GT の公式テストに挑んだ。通常ならばシーズン初の公式テストということで多くの観客が訪れるが、新型



コロナウイルスの蔓延によって大規模イベントの中止などが要請されていることもあり、今回の公式テストは無観客での実施となった。

シーズン初の公式テストは 14 日、15 日ともに 2 時間の走行枠が 2 本設けられていて、走行枠の途中に今シーズンから導入されることとなった FCY（フルコースイエロー）やセーフティカー、スタート手順などの確認やトレーニングも含まれた。

14 日は未明から降り始めた降雨の影響で路面はウエットコンディションとなる。1 本目の走行セッションは 10 時から 12 時の 2 時間で、走行がスタート前に雨は止んだが路面は濡れたままで、コースインしたマシンは全車がレインタイヤを選択。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 には吉本選手が乗り込んで、マシンの状況とタイヤとのマッチングを確かめる。10 周ほど走行するとピットに戻り、河野選手にステアリングを委ねる。SUPER GT 初参戦となる河野選手は、同選手権に参加するスキルがあるかを確認するルーキーテストを受ける必要があり、ウエットコンディションの中で走行をスタートさせる。途中で赤旗によるセッション中断もあったが約 25 周を走行して、セッションの最後は吉本選手が再びコースイン。路面が乾いていったためにタイヤをスリックに変更し、最終周にベストタイムとなる 1 分 28 秒 001 をマーク。公式テストに参加した 30 台の GT300 クラスの中で 9 位となった。



1 本目のセッションの中盤から路面が乾いていったが、昼過ぎになると再び岡山国際サーキットに雨が降り、2 本目のセッションが始まる 14

時の時点では再びウエットコンディションとなった。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 には河野選手が乗り込み、ウォームアップをするとともにレインタイヤの感触を掴むために走行を重ねた。途中で FCY の模擬練習を挟み約 1 時間半のドライブを終えると吉本選手にバトンタッチ。

TEST Days

路面コンディションが回復したためにスリックタイヤで周回し、二人のドライバーで計 56 周を走行。想定していたメニューを消化して、1 日目の公式テストを終えた。

公式テスト 2 日目の 15 日は早朝から曇り空だったものの、気温が 5℃に満たず陽も差し込まなかったために路面が乾かなかった。9 時からスタートした 3 本目のセッションも最初はレインタイヤを履いてコースイン。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 には、まず吉本選手が乗り込み FCY やセーフティのトレーニングを消化する。3 本目のセッションではクラッシュやコースアウトが多く複数回の赤旗が提示され頻繁にセッションが中断するなかで、二人のドライバーは計 44 周を走行。ベストタイムは 1 分 28 秒 064 で 24 番手となった。

2 時間のインターバルを経て実施された 4 本目の最終セッション。この走行枠ではスタート練習が組み込まれていて、吉本選手が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 をグリッドに並べた。スタート練習後には FCY のトレーニングも行なわれ、全車が参加した練習プログラムが終了すると、吉本選手は決勝レースを想定したロングランテストを実施した。安定したラップタイムで 20 周ほど走行を重ねると、最後に河野選手も 15 周ほど周回。4 回のセッションで最多となる 59 周を走行し、二日間の公式テストを締めくくった。

ドライバーとタイヤを変更して 2020 年の SUPER GT を戦うことになる LMcorsa。セットアップを含めたデータ量がそろっているとはいえないが、3 月末に行なわれる富士スピードウェイでの公式テストを挟み、開幕戦では上位へ進出できるようにマシンを仕上げていく。



Team Comment



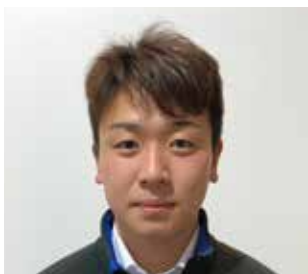
Director :飯田 章

初日は、ほとんどがウエットで、二日目はドライコンディションと色々な状況でテストできました。今シーズンからミシュランに変更したこともありウエットではレインタイヤを初めて履くなど充実したテスト内容だと思います。想定していた気温より低かったのですが、これまでよりもセットアップの方向性は確かめられています。ドライバーとしてはタイムが気になると思いますが、テスト内容や消化したメニューなどを考えるとレース本番が楽しみです。SUPER GT ではルーキーの河野選手ですが、経験豊富なドライバーなので何の不安もありません。的確なフィードバックなどチームの力になってくれています。



Driver :吉本 大樹

天気予報に反して雨が降ったり止んだりコンディションが定まりませんでしたでしたが、それでもミシュランのレインタイヤで走れたことは良かったです。事前のメーカーテストでは走行距離も短かったため、二日目にロングランができたことなどは収穫です。ただ、タイムを比較するとライバル勢に遅れを取っているように感じます。どのような状態でテストしているかは分かりませんが、さらにデータを集めてパフォーマンスを引き上げていく必要があります。焦りもありますが、今後の公式テストでも着実にメニューを消化していき、開幕戦までに戦闘力の高いマシンに仕上げていきます。



Driver :河野 駿佑

初日のセッション 1 でルーキーテストがあり、ウエットでしたが無難に走行してクリアすることができました。500 クラスとの混走では抜かれかたなどを意識しましたが、上手く混走できたと思っています。事前のメーカーテストを含めて SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 をドライビングするときの課題は見つかっているので、今回のデータも見ながら修正していきたいです。テスト内容に関してですが、想定していた路面温度より低かったために全部が消化できたわけではないです。それでも、様々なコンディションで走れて経験にはなりました。

